PICKIN' SINGIN' GINZA
Rocky Top かわら版
第51号
'00, 2, 1 発刊

Yeah! マネージャーNo.10
キックボード事件　作. チーフ井上

拝啓 February

ミレニアム2000年も一月すぎて、2月です。正月ぼけはどこへやら…といった様子で銀座の町もいつものリズムで動いています。この時期は風邪に気をつけて、このリズムに乗っていきましょう。アーハ!

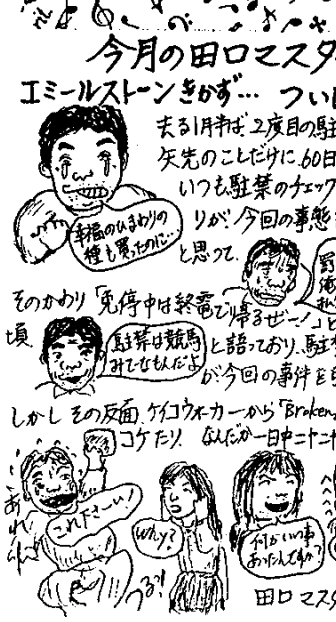
今月の田口マスターの動き

エミールストーンきかず… ついに免停確定!

まる1月半ぶ2度目の駐禁にひっかかった。免停講習を受けた矢先のことだけに60日間の免停は確定と見られている。いつも駐禁のチェックを見回る小柳マネージャーのちょっとした息ぬきが今回の事態を招いた。さすがに小柳氏もすまないと思って、幸福のひるまわりの煙も買ったのに…と謝罪したが、賞金は俺がネクワル。と、自分で払います!とつっぱねた。

そのかわり「免停中は終電で帰るぜ〜!」といきまいている。小柳氏は日頃、駐禁は競馬みたいなもんだよ と語っており、駐禁にギャンブル性をもちこんだ謎の理論が今回の事件を引き起こした原因と考えられる。

しかしその反面、ケイコウォーカーから「Broken Ashes」のCDを買う時、緊張のあまりコケたり、なんだか一日中ニヤニヤご気嫌な日があったり、人間とは喜怒哀楽があり、またくおめでたい生き物だなーと思う今日この頃である。



何しろ後厄の今年、田口マスターの運命やいかに…… つづく

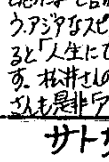
チーフ井上の出会い2000.!

千葉県西白井「アンの家」のマスター松井慎一郎さん（冒険写真家）

西武の工藤1人の金がなくとも出会いはできる! 出会いこそ我財産! と思うチーフ井上です。今回は最近僕が出演させてもらってる北総線(京成金町から出ている)西白井駅からすぐの「アンの家」(TEL 042-992-3020)のマスター松井慎一郎さん(38)です。店に入ると何やら少女趣味のファンシーグッズにまじって、所せましとアジア(主にチベット)の写真が飾られている。これを撮ったのがマスター松井さんだ。高校時代は国学院久我山でラグビー全国優勝を果たし、その後モデルとして雑誌などに登場。それからカメラをやり出し、アジアに行っては撮りまくる生活が始まり、アサヒグラフで巻頭25ページにわたって「松井慎一郎のチベット自転車横断の旅」とかも特集された。全てを受け入れる器と、激しく暖かい(ラグビーのタックルのような)パッションをもち、それでいて謙虚という、久々に会ったGood Heartな男だ。それにしてもチベットを自転車で走破というのはすごい! まさに冒険写真家だ。今まで写真展とか行くとだいたいが「まいいんじゃない」ぐらいだったが、この人の写真は初めて胸をすくされた。とにかくヒューマンなのだ。優しく激しく暖かい、風景写真であっても それが感じられる。そしてチベットの山々は素晴らしく神聖だ。松井さんに「いやー井上君を見て縄文人ここにも居たか」と思ったよーと言われる。沖縄好きな自分と何か通じ合う。アジアなスピリットがあるのだろう。この人と話しると「人生にできないことなど何もない」と思ってしまいます。松井さんの素晴らしい人柄と写真を見にみなさんも是非「アンの家」に行ってみて下さい!

サトちゃん さよなら…

〜沖縄人旅立ち〜



ロッキートップスタッフの西澤聡子ちゃんが、念願の沖縄に人間国宝を目指すべ ついに旅立つ。(2/4に)

1月には自ら沖縄を訪ね自分の足で歩き回ってアパートを探した努力が実り、那覇の安里(国際通りのつきあたり)で6畳2部屋、バストイレ付の部屋をゲットした。はた織り職人を目指す生活が始まるが、まだ仕事も、何も見つかっていないそれなのに、とりあえず行ってしまうというパワー!情熱!青春! 「若いっていいねーー」とつぶやくおじさんの声がきこえてくるようだ…… あっ、俺の事か…

ブルーグラスな人達 〜Meet The Bluegrass〜

ブルーグラスとの出会いを通してブルーグラスを考察するこのコーナー。今回はパパラッチ金森として最近全国的に有名なOne&Onlyのボーカル金森正記さん(44)です。インターネットにおいて「ブルーグラスWho's Who」というページを設立、日本のブルーグラッサーがどこに住み担当楽器は?が写真付で一目で分かる非常に便利なページでとても好評だ。ある日デジカメを下げて歩いていたら撮りまくっている姿を見かけ、一瞬ストーカー的な恐怖を覚えたが、いやいやブルーグラスへのただならぬ愛情の証しなのだ。今回はその辺も含め、パパラッチの音楽人生にせまってみた。2/2ホ ロッキーライブ!!

→中学の頃、フォークルセダースの「帰ってきた酔っぱらい」をきいて、俺もギターを弾きたい!と思った。当然女の子にもてたいという健康的な理由もあり最初に手にしたのがなんと12弦ギター(!)少しでも他より目立ちたかったのだ。しかし初心者には12本のチューニングはつらい。結局6本しか張らないで弾いていた。中学の頃はバスケットボール中心のスポーツ少年でギターは女の子目的だったが、あまりもてなかった…… そして高校、小田原の高校に入学したのだが、そこにはポピュラー系の音楽部はフォークソング部一つしかなく、しかも当時としては時代遅れのモダンフォークしかやらない部だった。高校ではバスケなどやらず軟弱に音楽でもしたかった金森さん、しかたなくその部に入るのだが、それがその後の音楽人生を決定づけることになる。かしこすんなりとモダンフォークの世界に入っていき、キングストーンの影響で手にした2本目のギターがテナーギターという4本弦のギターだった。(これも変わっている!)しかし部室にはなぜかフラット&スクラッグスのポスターがはってあり、ひそかにブルーグラスに走る先輩達もいた。その影響でぼくはじめてブルーグラスをきいた。そして当時は「これが70年代サウンドだ!」というキャッチコピーでニッティーグリッティバンドが日本に入ってきた頃で、フォークロックのバックに流れるバンジョーの音色に心ふるわせた。よーし!大学に入ったら絶対ブルーグラスバンドをやるぞー!という意気ごみで、法政大学に入学。キングストーンのギターピン奉法できたえたのでスピードとパワーには自信があった。当時は学生バンドが最もピークだった頃でジョイントコンサートもしょっちゅうだった。金森さんはユニグラスの寄贈長をつとめることに…当時は甘い状況でほっといても新入部員は入ってくるし、大物外タレもがんがん来て日本をもり上げていた。タイムトンネル、ウィッシュボンに出るためにOne&Onlyを3年の時に作った。法政、理科大、明学の合体バンドだった。それから24年、バンドを続けている(メンバーはチェンジした)。そしてこの年になって気づいたこと「自分は井の中の蛙だなー」たくさん顔見知りがいるのにあまりコミュニケーションしてなかった。これからは外に出てブルーグラス界に貢献しよう!そう思って始めたのがWho's Who だった。50代の目標の中の人達がそろそろ不満が出てきて必ず戻ってくる。そしてその3倍速という予備軍もいる!と金森さんは言う。まだまだ大丈夫かもしれない。そんなブルーグラス界を作ったWho's Whoをたち上げた金森さんの熱意に心から拍手を送りたい!

Pick Upライブ!

2/5(土) スピリット・オブ・グラスとウォッチアウト

若手コンドリンアレ作・浅井さん、ずば抜けギターリスト佐藤オーさん、元ゴローさーのバンジョー酒井さん、フィドルはゴロー山田さん、ベースはいい人手島さんのスピリット・オブ・グラスと、ブルーグラス界の老舗、孔中貞味のウォッチアウトとのジョイントだ!

2/10(木) ロッキーマウンテンクライマーズ

今回はグラスフリークとのジョイント

小野マリコのみずみずしくパワフルなボーカルにマスター田口の実生活からにじみ出るハイロンサムなボーカルがからみ、中島さんのすばらしいバックがサポートする。ロッキーのハウスバンド「ロッキーマウンテンクライマーズ」が、超ポップ系グラス、さわやかなグラスフリークとジョイントする。快地良い気分になれそうだ……?